

四海波静

茨木のり子

戦争責任を問われて

その人は言った

そういう言葉のアヤについて

文学方面はあまり研究していないので

お答えできかねます

思わず笑いが込みあげて

どす黒い笑い吐血のように

噴きあげては 止り また噴きあげる

三歳の童子だって笑い出すだろう

文学研究果さねば あばばばばとも言えないとしたら

四つの島

▶この詩と作者について◀

茨木のり子（いばらき・のりこ）

1926～2006、詩集『自分の感受性くらい』、『倚りかからず』、訳書『韓国現代詩選』、一般書『ハンゲルへの旅』、その他著書多数。

1975年10月、昭和天皇の初めての公式記者会見が行なわれた。ザ・タイムズの中村浩二記者が「戦争責任についてどのようにお考えですか」と質問すると、天皇は「言葉のアヤ」と答えた。報道を見ていた茨木のり子は「野暮は承知で『四海波静』（しかいなみしずか）という詩を書かすにはいられなかった」と記している。（「いちど視たもの」／共著『女性と天皇制』、思想の科学、1979年）

笑ぎに笑ぎて だよもすか

三十年に一つのとてつもないブラック・ユーモア

野ざらしのどくろさえ

カタカタカタと笑ったのに

笑殺どころか

頼朝級の野次ひとつ飛ばず

どこへ行ったか散じたか落首狂歌のスピリット

四海波静かにて

黙々の薄気味わるい群衆と

後白河以来の帝王学

無音のままに貼りついて

ことしも耳すます除夜の鐘

1975 『ユリイカ』 11月号

▼ 表紙絵の作者 ▲



小柏 太郎
(おがしわ・たろう)

1919（大正8）年、島根県杵築に、二男二女の長男として生まれる。教職にあつた父の転勤のため、福岡市、群馬県沼田市、岐阜市を経て、東京府立第九中学校卒業。43（昭和18）年9月、東京美術学校鍍金科を繰り上げ卒業。その後、志願兵として最初は航空隊を希望するが、試験の結果、海軍予備士官学校館山砲術学校に入隊。山口県光市の小隊に配属となり、45（昭和20）年3月15日、フィリピン・クラーク地区において戦死。享年26。